

## 令和5年度 第4回四日市市立図書館協議会会議要録

1. 日時 令和6年1月23日(火) 午後2時00分～
2. 場所 四日市市立図書館 2階 一般閲覧コーナー
3. 出席者 岡田博子委員、加納光委員、竹内裕子委員、竹下すま子委員  
柘植敏生委員、中井孝幸委員、福永智子委員、諸岡篤委員(五十音順)  
図書館:堀田館長、川崎副館長兼奉仕係長、岡管理係長、生川奉仕係員
4. 欠席者 樋口雅也委員
5. 傍聴者 1人 (報道2社)
6. 議事・報告事項
  - (1) 新図書館の目標像と理念・基本方針等について
  - (2) 目標所蔵冊数の検討について
  - (3) その他 【非公開】

議事に入る前に、議事(3)については以下の理由により非公開とすることについて可否を諮り、認められた。

<理由>建物図面を示したうえで諸室構成案について説明、意見をいただきたいが、図面が、協議会で意見をいただくために限定的に公開することの許可を得た資料であるため。

### (1)新図書館の目標像と理念・基本方針について

事務局より、資料1および資料2を用いて説明。

資料2のとおり、中心市街地拠点施設整備基本計画(平成30年1月策定)では、図書館を含めた施設全体の方針として4つの機能が設定されており、その1つ「ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした滞在型図書館機能」に対して3つの基本理念と6つの重点方針を示している。今回、基本的には以前の内容を引継ぎながらも、立地場所の変更、デジタル機器の浸透、人口減少などの影響をふまえて見直しを行い、重点方針としてICT関連の項目を追加した。

委員:基本方針④では博物館等との連携とあるが、どのように実施するのか。人権図書等、図書館の持っている資料等の観点から教えてほしい。

図書館:これまでにも、図書館の所蔵資料のうち、博物館で収蔵するほうがふさわしいと思えるものは相談し、価値を見極めてもらっている。また資料によっては、人権センターに相談のうえ、資料として公開するかどうか等の判断を行う場合もある。博物館の収蔵となると、展示で公開する以外に目にする機会がなくなり、図書館のように日常的な利用ができなく

なる。そこで古い新聞などは図書館がデジタルでスキャンして残すことを考えている。資料の保存とは異なるが、博物館や文化会館等の催し物と連携して図書館で特集を行うなど協力を行っている。

委員：平成30年の基本計画を担当した。内容が具体的でわかりやすくなっているように感じる。ワークショップ等での意見も盛り込まれているように思われ、良いと思った。

委員：基本方針⑤にあるように、高齢者・障害者・子連れ保護者・外国人市民など多様な利用者へ安心して利用できることは大切である。そこで、外国人利用者の状況はどのようになっているのか尋ねたい。今後、外国人市民は増えていくと思うが、どのように具体的に対応していくのか。

図書館：現在、外国人市民の利用は多いとはいえないが、赤ちゃん絵本の読み聞かせに参加いただいているケースなどがある。読み聞かせに参加したり絵本を借りたりするだけでなく、子育て支援施設の場所など、子育ての情報も提供している。外国語の絵本も用意しているが、書架的に所蔵の限界がある。一昔前の在住者にはポルトガル語、スペイン語の話者が多く、最近では東南アジアの人々が多い。それらの人々への対応を考える必要があると認識している。

委員：基本方針⑤のバリアフリーの推進は、自動車文庫の拡充ともかかわってくる。田原市図書館では「元気はいたつ便」という高齢者福祉施設向けのサービスを行っている。本だけでなく、民具などを持っていくというユニークな取り組み。認知症の方などに回想法という手法を用いて、古い民具や写真・CDなどを使い思い出を語り合ってもらっている。職員もその研修を受けて回想法の活動を展開している。本をただ置くだけでなく、消えて行ってしまうようなものを対象に語り合い、高齢者の方々に昔のことを思い出してもらおう。そうすると、利用者はその夜、ぐっすり眠ることができるそうである。このようなサービスも視野に入れて移動図書館を幅広く活用しては。

また、基本方針⑦について、新図書館の蔵書全てにICタグを付与するのか、市内に分散する資料にも付与するのか尋ねたい。徹底してICTを活用する方針を打ち出したのは愛知県安城市のアンフォーレであり、開館当時、日本で一番だと言っていた。どのあたりを目指すのか。

図書館：現在、自動車文庫は高齢者施設への訪問はできていない。ただし市内のボランティア団体で、事前に児童書や昔の懐かしい図書館の本を借りに来る方々はおり、それらの活動に利用されている。田原市のように自分たち図書館員がどこまで主体となるかは要検討だが、現在、自動車文庫のあり方について、車体のサイズや利用拠点等、全体的に見直しをかけているところなので、先進事例で取り入れられるものは取り入れていきたい。現在の自動車文庫は15時程度で帰館してしまうため、小学生などは借りたくとも借りられない状況がある。いくつかの学童保育所には近くの自動車文庫駐車場所を案内し貸出をしているが、今後、借りに来られない学童保育所向けに図書の貸出サービスを拡充する予定である。我々にできることを見極めながら進めていきたい。ICタグの導入については、あさけ

プラザ・楠交流会館の本も含めて IC タグを導入する予定。貼付がない図書があると物流上の問題が生じるため、すべてに対応予定だ。過去、バーコードを導入した際には本の取捨選択も行ったと聞く。今回の新図書館でも同様、四日市としてのコレクションとして必要かどうか、ある程度見極めていきたい。利用者にとってどうしたら使いやすいかを考えている。単に IC タグを導入するだけでは劇的に利便性が向上するわけではない。新図書館ではさらなる ICT 機器の配備等を踏まえて、次期機材等の導入方針や今後の IC タグ等利活用の繋がりを考えていきたい。

委員：基本方針を良いなと思って拝見していた。基本方針①では、紙媒体と電子のハイブリッドを唱えているが、電子ジャーナルについて、具体的にどのようなイメージをしているのか。サブスクリプション式の読み放題個人向けサービスは公共図書館ではあまり聞いたことがない。また、学術的な論文誌を対象としているように思われるが、大学図書館は電子ジャーナルの契約・予算面で非常に苦しんでいる。方向性を教えていただきたい。

図書館：電子ジャーナルは学術雑誌を想定している。医学の、例えば医中誌など、他の公共図書館では導入しているケースがあり、四日市市立図書館でも使えないかという問い合わせを受けることがある。また、現在提供しているデータベースは、官報や中日新聞等ごく僅かに限られており、法律系データベースが不足しているという指摘がなされることもある。他にも論文検索のニーズがあり、必要な範囲を見極めつつ提供したい。県立図書館で十分提供されていないものもあり、四日市として必要なデータベースを導入したい。なお、四日市看護医療大学があるためか、看護の情報をカウンターで尋ねられることもあるが、専門的な情報がないため大学を紹介することもある。専門的な情報もニーズがあるのかもしれない。また、サブスクリプション方式のものとして、現在導入中の電子図書館サービスの一環で、アクセスし放題の雑誌等がある。

## (2) 目標所蔵冊数の検討について

事務局より、資料1を用いて説明

委員：将来的には書架の増設を考慮して合計で70万冊とのことだが、開架冊数の検討はどうか。公開書庫のように、利用率が減少した図書を、閉架書庫に直接収蔵せず、開架ではない場所で対応するというケースもある。現在の考えを教えてください。

図書館：約20万冊収蔵可能な自動化書庫を入れることを想定している。現在、座席や書架高を検討中なので正確な冊数は算出していないが、公開書庫を作ったほうがよいという意見はある。また、フロアが分かれていることから、それぞれのフロアに小さな集密書庫を用意して、出納を容易にすることを考えている。また車椅子やベビーカーが対向できるスパンで書架配置を考えているが、利用頻度の下がった資料は書架のピッチを狭めた場所に排架することも良いと考えている。開架冊数は蔵書の新鮮度との兼ね合いも重要であるため、

単に開架にたくさん本を出すだけでなく考えていきたい。なお、現図書館の蔵書の弱点等  
を分析中である。新館に向けて、開館前に特別に図書を購入してからオープンするという  
ケースもあると聞かため、どのような分野を強化するかを現在、検討中である。伝えられる  
タイミングとなったらお披露目する。

委員：先日、多摩市中央図書館の新館ができた。開架収蔵冊数は27万冊で、大量である。多  
摩は人口が多くはないが、25万冊を超えると運用が大変だと感じた。ただし延床面積はそ  
れほど大きくない。閉架にあまり入れず、開架で運用しようという発想だ。7段くらいの書  
架が並んでおり、利用者はステップを用いて上の図書を取ってもらうと考えているという。  
様々な考え方はあると思うが、多摩は開架をしっかり運用するという考え方に重きをおい  
ていた。新しい本を維持するためには大変だと推測されるため、開架のボリューム感は大  
切になると予想する。また、これからの図書館の利用方法を考えると、本を借りて、家で読  
む、というだけでなく、その場で読むこともあるし、作業を伴うこともあるだろう。それらにも  
必要面積が生じると考える。図書館利用者の内訳は5割が個人で、残り5割は家族などグ  
ループで来館する。大学図書館では7割が個人利用だ。今後、駅前立地の公共図書館が  
できるとすると、個人利用が増加するように思われる。大学図書館等で調査をすると、ラー  
ニング・コモンズというグループでディスカッションするような場所が増えているが、そのよ  
うな場所でも個人利用の人間が7割程度存在している。今後、居場所を多数用意する必  
要があり、それらの面積と座席数等との兼ね合いを考えていくことは大切だ。開架の冊数  
として、20万冊を超えるのかどうか尋ねたい。

図書館：現図書館の開架冊数は16万冊であり、5万冊弱が児童書、10万冊強が成人資料で  
ある。地域資料は6000冊ほどを開架としているが、バックヤードにさらに所蔵しているた  
め、開架化を進めたい。児童書のコレクションや全集、参考資料等、開架できるものも豊富  
にあるため、開架の20万冊は軽く超えていくと考えている。勉強用資料等は必ずしも最新  
版だけが必要というわけではないことを踏まえ、開架に出していきたいと考える。

委員：新石川県立図書館はビブリオバウムという名称であり、楕円形である。そこでは主題別  
開架で、7万冊展示している。また最上階 4F は巡回できる場所にしてあり、これまで閉架  
書庫で死蔵していた資料を人目に触れるように公開している。書架さえあればそのような  
ことは可能だ。運用方法はこれからだと思うが、開架冊数のボリュームが多いと運用は大  
変だと思う。古い本をうまく活かす方法を考えていただきたい。

委員：運用は大変と聞いたが、本に囲まれていたいという気持ちがあるため、開架を主にして、  
すぐ図書を手に取れる環境にしていきたい。毎年同額予算で図書を購入しているが、  
新館に向けて蔵書の取捨選択をするならば、同額予算では蔵書数が先細りになるのでは。  
充実した予算で、充実した蔵書の状態で開館していきたい。

委員：エビデンスがあるわけではなく印象論だが、職場の大学の学生の雰囲気を見ていると、  
若い人々は、図書館であまり喋らずに活動して帰りたいというものが多い模様だ。書庫に  
あると、カウンターで問い合わせをせざるを得ないため、利用を諦めてしまうようだ。また、

動画を倍速で視聴したり10秒動画が流行しているように、年々、時間感覚が短くなっている。早い方が良いので、書庫に本があっても問い合わせたくないのだから不要、できればデジタル、すぐダウンロードという感覚だ。一方で、図書館の、古い図書に囲まれる等の場の雰囲気を楽しむ人々もいる。何冊がよいかという具体的なイメージはないものの、開架割合は多いほうがいいのではないかという印象がある。

図書館：ワークショップでのご意見でも、本に囲まれたいというご意見や、背が低いので低い書架にしてほしい、どうせイヤホンをするので個室でなくてもよい、周りの人が勉強していると勉強したくなるので、PC持ち込み禁止の静寂勉強室が欲しい、友人と食べながら勉強したいなど多種多様な要求があった。すべての要求をかなえることは難しい。寄せられた意見は1000件を超えたと思われる。個人利用席、共同利用席など、様々な要求に答えながら、自分のお気に入りを見つけてもらいたいと思っている。様々な図書館エリアをコンプリートするような勢いで通ってもらいたいと考えている。小学生の頃から図書館利用に慣れている利用者は、レシートを持って書庫の本を出してほしいと希望するが、そうでない人は書庫にあるなら不要だという人もおり、なるべく開架割合は上げていきたい。ただし、スペースとの兼ね合いの問題で司書等との相談となるだろう。また、出納時間の短縮も課題と認識している。

委員：蔵書規模は70万冊とのことだが、電子図書等を除いてということか。今後、電子図書の割合は増加していくのか。その状況になるとすると、見直しをかける段階で規模も縮小することも視野に入れるのだろうか。

図書館：電子図書館は昨年10月に20,600コンテンツでスタートし、12月末の時点で22,600へと増加した。これは追加購入もあれば、サブスクリプション方式による自然増も含まれる。数年前は、電子図書館の日本語コンテンツが貧弱だったが、現在は新刊も含めて拡充している。ただし、古い本が提供されるというより、新しい図書が提供されている傾向がある。よって、過去の紙のコレクションを持ちつつ、新しい電子書籍を購入するという状態になっている。今後、過去の本の電子化が進んだ場合、誰しにもアクセスしやすいという観点から、電子での購入が望ましい可能性もあるが、現時点では、今後の展望は誰に聞いてもわからないとしか言われぬ。我々としても10年後を目安に見直しをかけて、その時期の電子ジャーナル・電子図書館等を含めた状況を見極めつつ進めていきたい。紙の本の将来の状況は不明である。現在はコレクションを保持しつつ、今後の買い足しを行っていく。これが現段階の回答となる。

以下、非公開